EIDAI

S852

室内ドア

吊り戸本体

施工・取扱説明書

このたびは、室内ドアをご採用いただきまして誠にありがとうございます。

●施工される方へ［施工説明書　P1～P7］

開梱時において、万一、梱包や製品にキズ等がある場合は、施工前にご購入先まで連絡をお願いいたします。
施工後のお申し出に対しては、当社としては責任を負いかねますので、ご了承願います。
また本説明書に基づき正しく施工後、本説明書を必ずお施主様へお渡しください。

●お施主様へ［取扱説明書　P7］

ご使用前に必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。また、お読みになられたあと、大切に保管してください。

安全上のご注意

●表示内容を無視して誤った工事・使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分して説明します。

⚠ 注意	この表示の欄は「取り扱いを誤った場合、使用者が軽傷を負うことが想定されるかまたは物的損害の発生が想定される危害・損害の程度」をいう。

●お守りいただく内容の種類を次の図記号で区分して説明します。

禁止	この図記号は、製品の取り扱いにおいて、その行為を禁止するものです。	強制	この図記号は、製品の取り扱いにおいて、指示に基づく行為を強制するものです。

もくじ

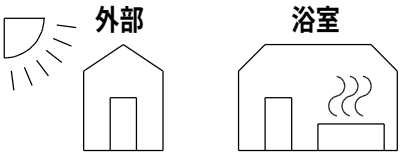
施工上のご注意・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
1．部材・部品表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
2．姿図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
3．施工手順・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
4．施工終了後の調整方法・・・・・・・・・・・・・・・・5～6
5．養生・お手入れ方法
　5－1．養生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
　5－2．お手入れ方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
6．ご使用上のご注意・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

施工上のご注意

以下の注意事項は、施工される方や住まわれる方への危害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

⚠ 注意	●本説明書は当社カタログ標準品に準じた寸法などの表示をしております。特注・特寸対応した製品については、現品のサイズ・加工などを確認のうえ施工を行ってください。 ●本製品はホルムアルデヒドなどの空気環境を考慮したものですが、施工の際にご使用になる現場調達品（飼木・接着剤など）によっては空気環境対策外の製品となる場合がありますのでご注意ください。

本製品は、一般住宅用（室内専用）です。
業務用や屋外または屋外に面する場所や浴室などに使用しないでください。



反りや変形の原因になりますので、製品到着後はすみやかに施工してください。また、開梱時には必ずキズの有無・部品のチェックを行い、開梱後は長く放置しないでください。キズが付く恐れがあります。

本説明書と異なる施工は行わないでください。間違った施工は思わぬ事故や故障の原因となります。また、本説明書と異なる施工で発生した製品の不具合についての返品・取替えはご容赦ください。

吊り戸枠を施工する際は水平・垂直を確認し、下図のような状態にならないように取り付けてください。
吊り戸が閉まりにくくなったり、すき間ができる原因となります。

吊り戸枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくり、乾燥した飼木を入れてください。

ファインモーション受け金具およびブレーキ受け金具は、取り外さないでください。
また、ファインモーション付き吊り車にあるオイルユニットのオイルを抜いたり、注入したりすると故障の原因になります。

本製品の組み立て・施工時には同梱の指定ビスを使用してください。他のビスを使用すると、部品・部材の脱落や枠の垂れ下がり・ゆるみなどの原因となります。
（本説明書内で「現場調達」と記載している場合は除きます）

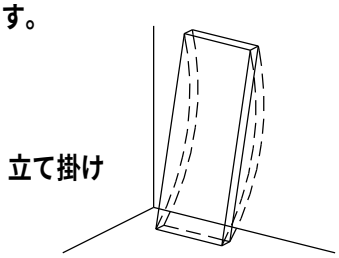
コンクリートやモルタルに直接施工しないでください。やむを得ず施工する場合には、必ず防水処理をしてください。

養生シートを使用する際は、粘着テープ等を化粧面に貼らないでください。テープをはがす際に化粧シートがはがれる恐れがあります。

建築工事中は吊り戸本体を養生・保全し、施工完了後に吊り込むことをおすすめします。

製品施工後は水などで、吊り戸本体・吊り戸枠を濡らさないようにしてください。

施工が完了するまでは、吊り戸本体や枠セットを水平に保管してください。立て掛けた状態での保管は反り発生の原因となります。



ファインモーション受け金具やブレーキ受け金具、吊り戸用関止め金具が、必ず所定位置（吊りレールに取り付け穴加工済み）に取り付けられているかご確認ください。また、吊り戸本体を吊り込んだり、外す際には、必ずファインモーション受け金具やブレーキ受け金具、吊り戸用関止め金具に衝突しないよう避けた位置にて作業を行ってください。

養生・お手入れ方法・使用上のご注意は７ページをご覧ください。

1．部材・部品表

施工前に部材・部品の梱包内容をお確かめください。

■吊り戸本体

部材名・形状	入数	部材名・形状	入数
吊り戸本体	1	下部ガイドレール　※1 （吊り戸本体に取り付け済み）	1
吊り車ケース （吊り戸本体に取り付け済み）	2	マグネットガイドレール　※2 （吊り戸本体に取り付け済み）	1
引き手 （吊り戸本体に取り付け済み）	2		
施工・取扱説明書　（本説明書）	1	マグネットガイド受け　※2 （吊り戸本体に取り付け済み）	2

※1．片引き吊り戸、引き違い吊り戸に取り付けています。
※2．引き分け吊り戸、4枚2本吊り戸、3本吊り戸、2本引き込み吊り戸、3本引き込み吊り戸に取り付けています。

■鎌錠付き仕様の場合

部材名・形状	入数
チューブラ錠 （吊り戸本体に取り付け済み）	1

■オプション金具

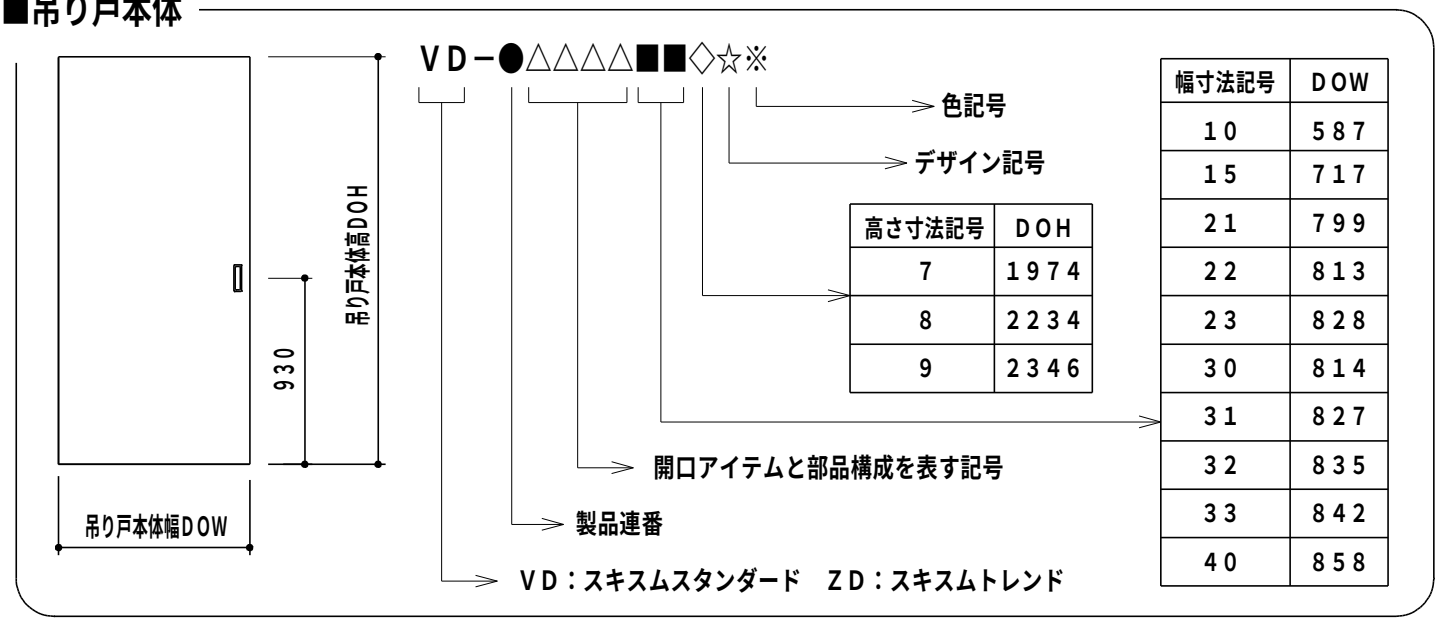
部材名・形状	入数
スモールライト （吊り戸本体に取り付け済み）	1

※上記の部品はオプション対応品です。標準品には同梱されていません。

2．姿図

■吊り戸本体

（単位：mm）

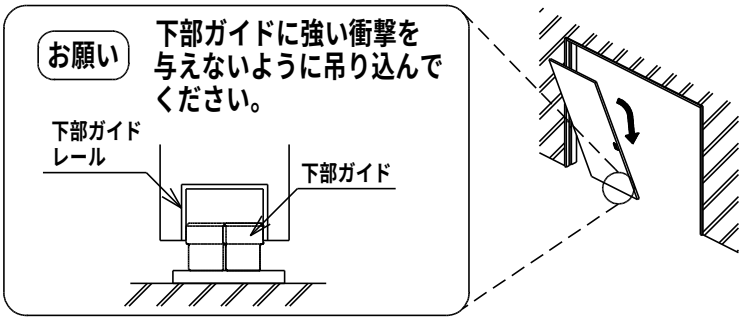


高さ寸法記号	DOH
7	1974
8	2234
9	2346

幅寸法記号	DOW
10	587
15	717
21	799
22	813
23	828
30	814
31	827
32	835
33	842
40	858

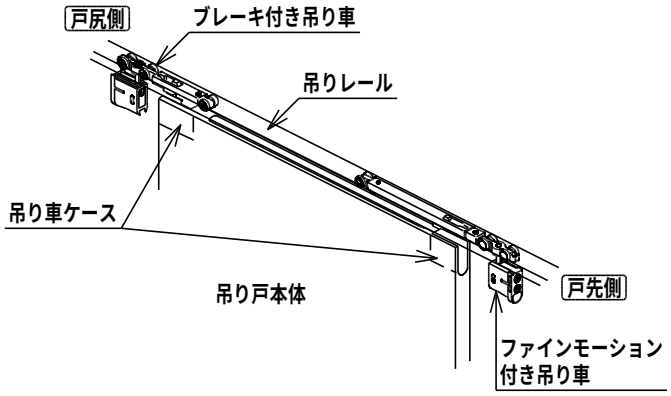
3．施工手順

①下部ガイド仕様の場合は、吊り戸本体を斜めに傾けて下部ガイドに差し込んでください。



②吊り車を吊り戸本体の左右に振り分けてください。
引き手側（戸先側）にファインモーション付き吊り車、反対側（戸尻側）にブレーキ付き吊り車がくるように揃えてください。

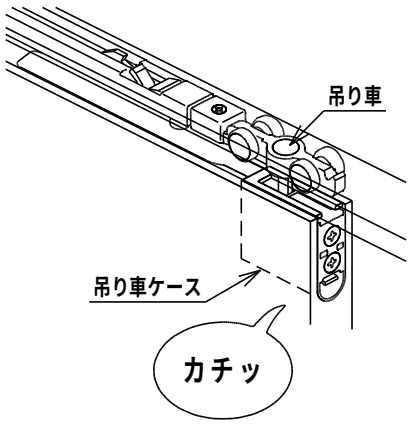
※オプション品（ファインモーションなし、ブレーキなし）の場合、両側とも標準吊り車になります。
※３本吊り戸の場合、センターの吊り戸本体は両端ともブレーキ付き吊り車になります。



③吊り戸本体に取り付けてある吊り車ケースに吊り車を「カチッ」と音が鳴るまで差し込んでください。

※吊り車を差し込む際、吊り戸本体を少し持ち上げて頂くと差し込みやすくなります。

④吊り戸本体を吊り込み完了後、吊り戸本体を静かに動かして、ファインモーション機構およびブレーキ機構が作動するか確認してください。



４．施工終了後の調整方法

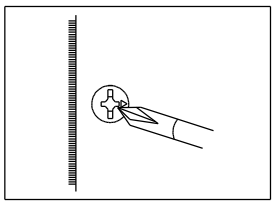
■各種金具の調整方法

吊り戸本体の施工後に、すき間・ガタツキなどがある場合は、以下の要領で金具の調整を行ってください。

お願い	調整には、ハンドドライバーをご使用ください。 電動ドライバー等を使用すると金具が破損する恐れがあります。

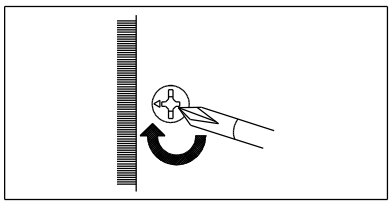
●中方立すきま調整金具の調整方法

モヘア出寸法は
初期設定で３．５mmです。



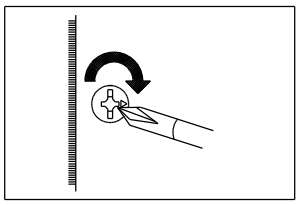
▲マークが
調整部材と
反対の位置

ツマミを半回転すると、
出寸法が１１．０mm（最大）になります。



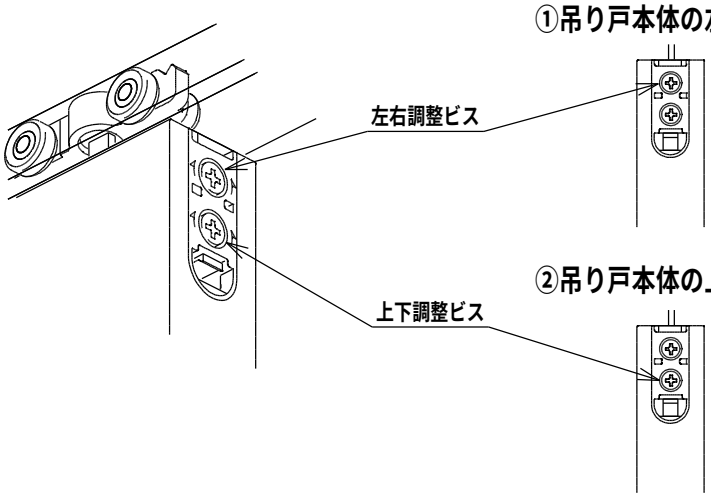
▲マークを
半回転

さらに半回転すると、
元の３．５mmに戻ります。



再び▲マークを
半回転
（元の位置）

●吊り車の調整方法



①吊り戸本体の左右調整

・基準位置より右に２mm、左に２mm
調整可能です。
・左右調整ビスを左に回すと吊り戸本体が左に、
右に回すと吊り戸本体が右に移動します。

②吊り戸本体の上下調整

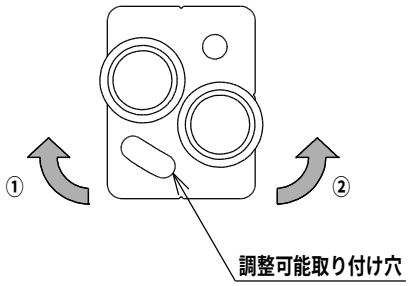
・基準位置より下に５mm調整可能です。
（納入時は下方向のみの調整となります）
・上下調整ビスを左に回すと、吊り戸本体が
下に移動します。

●下部ガイドの調整方法

・吊り戸本体のガタつきが大きいとき

↓

①調整可能取り付け穴のビスを緩めて、
下部ガイドを左に傾けて位置を調整し、
再度ビスを固定してください



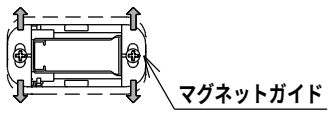
・吊り戸本体の走行が重いとき
・ファインモーションによって
吊り戸本体が最後まで引き込まないとき

↓

②調整可能取り付け穴のビスを緩めて、
下部ガイドを右に傾けて位置を調整し、
再度ビスを固定してください

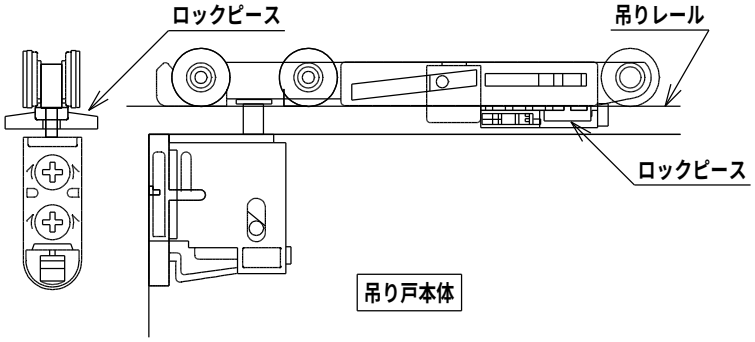
●マグネットガイドの調整方法

マグネットガイドは調整可能です。ビスを緩めてマグネットガイドの位置を調整し、
再度ビスを固定してください。



●ブレーキ機構の調整方法

ブレーキ付き吊り車のロックピースを指またはマイナスドライバーなどで下方向に押し下げながら、ロックピースを左右に移動させて調整してください。
ロックピースを左に寄せれば弱設定に、右に寄せれば強設定に変更できます。
（５段階に調整可能）

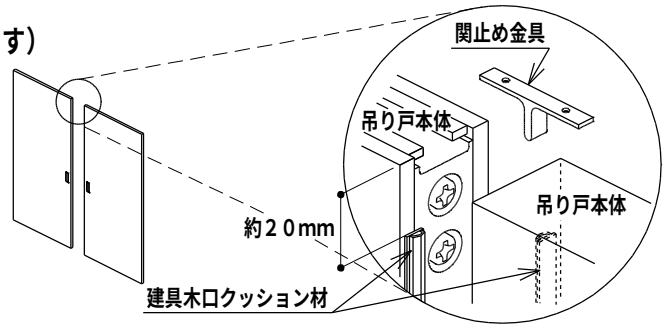


●建具木口クッション材の取り付け方法

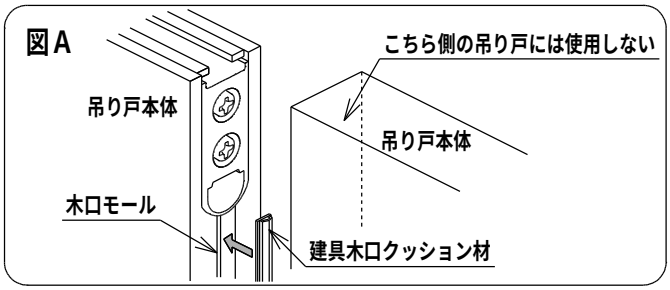
（引き分け吊り戸枠、４枚２本吊り戸枠のみ同梱しています）

・建具木口クッション材の裏面の両面テープで、吊り戸本体の木口に交互に貼り付けてください。

・建具木口クッション材が、関止め金具に当たらないように、吊り戸本体の上端より約２０㎜程下げた位置に貼り付けてください。



※木口モールタイプ吊り戸の場合は、片方のみ木口モールの上に貼り付けてください。
（図Ａ）

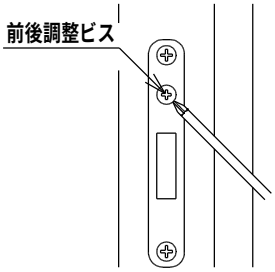


●鎌錠ストライクの調整方法

（引き分け戸には取り付けできません）
前後調整ビスにより、鎌錠の鎌部分のかかりを調整します。

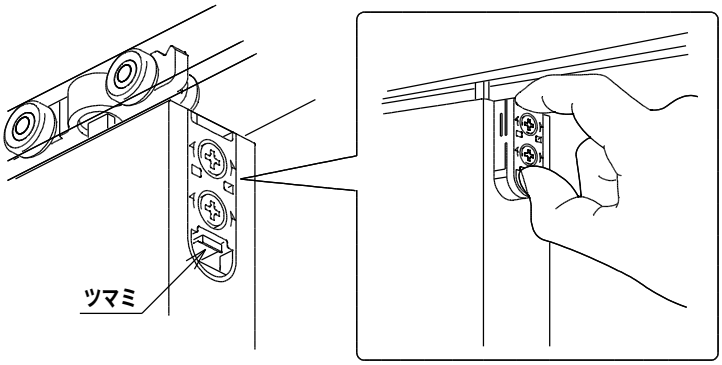
・調整範囲：基準位置より調整ブロックが奥に
２．８mm調整可能。

・前後調整ビスを左に回すと調整ブロックが奥に動きます。



●吊り車のはずし方

吊り車の上面とツマミ部分を指でつまみながら、吊り戸本体の木口面から水平に引っ張ってください。



お願い　吊り車をはずす場合は、吊り戸本体が床に落ちたり、倒れたりしないように注意してください。

５．養生・お手入れ方法

５－１．　養生

・当て傷・擦り傷等がつかないように保護紙等で養生してください。

５－２．　お手入れ方法

・吊り戸本体や枠が汚れている場合は、水を含ませた雑巾を固く絞り、拭き取ってください。
金属はやわらかい布で乾拭きしてください。

・採光部の樹脂板が汚れている場合は、やわらかい布で乾拭きしてください。
汚れが酷い場合は、薄めた中性洗剤（１％以下）を柔らかい布に付け軽く拭いてください。

・酸性、アルカリ性の洗剤、溶剤（シンナー・ベンジン）などは絶対に使用しないでください。
シートのフクレ・シワやシミ・艶ムラ、塗装・メッキのはがれやサビ等の原因となります。
・採光部の樹脂板には溶剤を含むもの（ガラスクリーナー・殺虫剤・塗料など）は絶対に使用しないでください。
艶ムラやキズ・変形・クラックの原因となります。
・レールおよびファインモーション金具には、潤滑油等を塗布しないでください。
ブレーキ力が弱まり、ファインモーション機構が作動しなくなる場合があります。

６．ご使用上のご注意

・ファインモーション機構やブレーキ機構は、吊り戸本体を開閉した際に発生する衝突音を抑え、吊り戸本体の跳ね返りを少なくするもので、指挟み等を防止するものではありません。

・ファインモーション金具のオイルダンパーが室温などの影響を受けて、吊り戸の閉まる速度が変わる場合があります。

・ファインモーションの機能が働かなくなった場合は、一度吊り戸本体を完全に閉めてください。

・万が一、吊り戸本体に下部ガイドまたはマグネットガイドがかかりにくい場合は、吊り車の上下調整にて吊り戸本体を下方向に調整してください。（５ページの「吊り車の調整方法　②吊り戸本体の上下調整」を参照してください）

・吊り戸本体に取り付いているファインモーション金具およびブレーキ金具は、取り外さないでください。
また、オイルユニットのオイルを抜いたり、注入すると故障の原因になります。
・吊り戸本体の開閉は静かに行ってください。勢いよく閉めるとブレーキ機構が破損する恐れがあります。
・吊り戸に寄りかからないでください。転倒や吊り戸の破損の原因となり、ケガをする恐れがあります。
・開閉にあたっては、吊り戸どうしのすき間や枠のすき間に手を置かないでください。
指を挟んでケガをする恐れがあります。特にお子様にはご注意ください。
・暖房器具などから発生する熱風、熱気が直接当たらないようにしてください。吊り戸の反り、変色、火災などの原因になります。
・吊り戸に粘着テープでポスターなど貼らないでください。表面が傷む恐れがあります。
・本体に水、油、殺虫剤などが付着しないようにしてください。
材質の特性により表面が膨れたり、シミ、変色などが発生する恐れがあります。
・使用中に異常を感じられたり不具合が生じたときは、取り付け部分などの確認をしてください。
ご自身で対処できない場合には、施工店にご相談ください。

取り付け・修理・補修部品などのご相談は、販売会社・管理会社もしくはお求めの工務店・販売店へ
お問い合わせください。

永大産業株式会社
http://www.eidai.com
内装システム事業部

お客様相談センター
0120-685-110
受付時間 平 日 9:00~18:00 土曜日 9:00~18:00
休業日 日曜日、祝日、夏期休暇、年末年始
E-mail:cs@eidai-sangyo.co.jp

S852Ie1901nkEP 第3版